

I. 無形文化財

芸能に関する無形文化財
工芸技術に関する無形文化財

教えて!?無形文化財 Q&A

Q1：文化財とは？

A：文化財とは、人間の歴史的、文化的活動で生み出された有形・無形の所産をいいます。これら文化財を保存し活用を図るため、国は「文化財保護法」を制定し、この法律にもとづいて国や県、市町村は、重要な文化財を指定し、保護します。

Q2：「無形文化財」と「重要無形文化財」の違いは？

A：演劇、音楽、工芸技術など、人間が持っている「わざ」＝「技術」は、形の無いものですが、我々が豊かな生活を営む上で欠かすことのできないものです。そうしたわざの中で、歴史上、芸術上価値の高いものを「無形文化財」といいます。これらを県が指定すると「県指定無形文化財」（市町村が指定すると「市町村指定無形文化財」）といいますが、特に重要であると、国が指定したものを「重要無形文化財」といいます。

ちなみに、沖縄県の重要無形文化財の指定件数は、かつて琉球国であったその歴史的背景から他県より多く、日本全体の約10%を占めます（2021年3月現在）。特に芸能は東京都に次いで多く、全国に5つしかない国立劇場の1つが、浦添市にある国立劇場おきなわです。

Q3：認定や追加認定とは？

A：「わざ」は、それを身につけた個人や個人の集団が演じることや、作られた作品でしかその存在を確認することができません。そのため、国や県は、わざを高度に身につけている個人や団体を選ぶ必要があります。これを認定といいます。

また、認定された文化財を高度に身につけた個人や集団が新たに出てきた場合、国や県は、追加で認定し、わざが途絶えないようにします。これを追加認定といいます。



Q4：国の認定の方式はいくつ？

A：国の認定には大きく分けて次の3方式があります。

方式(対象)	認定内容
各個認定 (個人)	重要無形文化財に指定される芸能を高度に体現できる者、または工芸技術を高度に体得している者。通称、人間国宝と呼ばれる。
総合認定 (団体の構成員)	2人以上の者が一体となって芸能を高度に体現している場合や2人以上の者が共通の特色を有する工芸技術を高度に体得している場合において、これらの者が構成している団体の構成員。
保持団体認定 (団体)	芸能または工芸技術の性格上、個人的特色が薄く、かつ、当該芸能または工芸技術を保持する者が多数いる場合において、これらの者が主たる構成員となっている団体。

Q5：記録作成等の措置を講ずべき無形の文化財とは？

A：国は、重要無形文化財に指定されていないが、日本の芸能や工芸技術の変遷を知る上で重要であり、記録作成や公開等を行う必要がある無形文化財を選択します。国が記録作成を行い、地方公共団体が行う記録作成や公開事業に対して助成を行います。通称「選択無形文化財」といいます。

Q6：選定保存技術とは？

A：有形・無形を問わず文化財の保存に必要な材料や用具の生産・製作、修理・修復の技術を、文化財の保存技術といいます。国や県は、保存の必要があるものを「選定保存技術」として選定し、その保持者及び保存団体を認定しています。沖縄県の芸能では、「組踊道具・衣裳製作修理」が、工芸では「琉球藍製造」、「苧麻糸手績み」、「手機製作」が選定されています(2021年3月現在)。

国指定重要無形文化財

ユネスコ無形文化遺産

組踊は、琉球古語によるせりふ(唱え)を中心に、琉球舞踊、琉球古典音楽で組み立てられた沖縄独自の歌舞劇(演劇)です。第二尚氏十三代の尚敬王が冊封使(琉球の国王が代わるごとに、中国の皇帝から国王として認めてもらうための使者団)をもてなすため、踊奉行であった玉城朝薫に命じて創作させたものがはじまりです。

初演は1719(康熙58)年の冊封式典後の重陽の宴で、「二童敵討」と「執心鐘入」が首里城で上演されました。その後、玉城朝薫は「女物狂」「銘苺子」「孝行の巻」を創作し、これらの作品を「朝薫の五番」あるいは五組といっています。以後も数多くの組踊が創作され上演されました。

組踊は琉球芸能の中でも、その芸術性や芸能史上の価値からも重要であるばかりでなく、日本の芸能全般を広く考える上においても特殊な地位を占めているため、能楽



二童敵討*

や歌舞伎、文楽(人形浄瑠璃)と同じように国指定重要無形文化財になっています。

さらに、2010(平成22)年にはユネスコの無形文化遺産「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」にも記載された、沖縄が世界に誇る伝統芸能なのです。

組踊三要素



※あくまで一例です。他にも道はあるので、コツコツ技能をみがいでいこう。

用語の解説



第二尚氏

尚思紹王を始祖として7代63年間続いた第一尚氏に代わり、1469年に尚円王から始まり1879年の尚泰王まで19代410年にわたり琉球国を統治した王統。

尚敬王

(1700～1751年)第二尚氏第13代国王(在位：1713～1751年)。蔡温を三司官に登用し、農業や林業などさまざまな政策を行わせた。また、教育や文化の振興にも力を注ぎ、琉球国の黄金期とも呼べる時代を築き上げたことで名君と称される。

踊奉行

琉球国時代にあった、舞(行事)を開催する際の監督・指導を行う臨時の役職。冊封使の接待も担当するなど重要な役割を担った。

玉城朝薫

(1684～1734年)組踊の創始者。数度の江戸上りで歌舞伎や狂言などに触れてそれらも取り入れ、踊奉行として組踊作品を創作した。

重陽の宴

冊封使が琉球滞在中にもてなす七宴の第四宴で旧暦9月9日に首里城で行われた。龍潭池で爬龍船(はりゅうせん)漕ぎを見物後、北殿で組踊などを鑑賞した。

能楽

能と狂言を含む伝統芸能。室町時代から演じられてきたとされる、日本を代表する舞台芸術の一つ。

歌舞伎

音楽と舞踊が一体となった舞台演劇で、日本が世界に誇る伝統芸能。江戸時代に成立し、今も人気を集める。

文楽(人形浄瑠璃)

三味線の伴奏で語る浄瑠璃に合わせて演じる日本固有の人形芝居。

国指定重要無形文化財

演劇、音楽、工芸技術など「わざ」の保護・活用のために国が指定したもの。認定された個人は「人間国宝」とも呼ばれる。

ユネスコの無形文化遺産「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」

ユネスコが「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づいて作成したリスト。日本からは2021年1月現在22件が登録済み。

組踊は観に行くのではなく「聴きに行く」と言ったりする。せりふと音楽は舞踊同様にとっても大事な要素なのだ。



ココがポイント!

くみおどり とくちよう
【組踊の特徴】

- ①台本を備えていること。
- ②せりふの唱え方が役柄や階級によって違うこと。
- ③せりふの声の高さは、三線の調弦と同じ高さを基本とすること。
- ④幕は、演目が終わるまで下ろさない一幕であること。
- ⑤演技が時間とともに進行すること。(過去の場面を演じない)
- ⑥歌は、三線の前奏なしで歌うことが多いこと。



花売の縁*



地謡*



地謡*

(* 写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会)

知っておきたいお話

ちょうくん ごほん 朝薫五番のストーリー

に どうてきうち 『二童敵討』

一番有名な組踊の演目。

2人の兄弟が、父・護佐丸の敵である阿麻和利を討つという物語。阿麻和利の「七目付」という所作(体の動き)に注目! とてまかっこいいんだ。

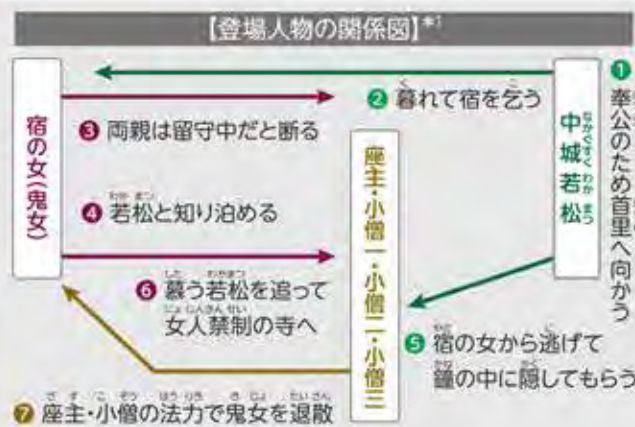


阿麻和利の七目付



しゅうしんかねいり 『執心鐘入』

美少年として有名な中城若松は、泊めてもらった宿の女に言い寄られたため、寺へ逃げ込み鐘の中に隠れる。追ってきた女が鬼に変わり、寺の座主(偉いお坊さん)達が法力で説き伏せる緊張の場面は、とてもドキドキするよ。



鬼女 vs 座主・小僧の緊迫の戦いの場面

*1【参考文献】編集・発行 一般社団法人伝統組踊保存会「ユネスコ無形文化遺産 国指定重要無形文化財 『組踊』特別鑑賞会 演目解説書」2019年

用語の解説

護佐丸

(?～1458年)15世紀の有力按司(地方の領主)で中城城主。勝連城主阿麻和利によって謀反の罪を着せられ、阿麻和利軍・中山軍に攻められ自害した[護佐丸・阿麻和利の変]。

阿麻和利

(?～1458年)15世紀の勝連半島の有力按司で勝連城主。中城城主護佐丸を討った後、王位を狙い中山を攻めるが大敗した。

「孝行の巻」

沖縄に伝わる民話が題材で、貧しい一家を救うために、大蛇の生け贄になる娘とその家族の物語。生け贄の娘の前に大蛇が現れ、あわやという時に、天から神が降りてくる大胆な仕掛けが見どころだ。



孝行の巻 *2

「銘苺子」

泉で髪を洗う天女の美しさに惚れ、羽衣を隠してしまう銘苺子。夫婦となり子どもを授かるけれど、やがて羽衣を見つけた天女は天へ帰ってしまう。親子の悲しい別れの場面が一番の見どころ。沖縄に伝わる「羽衣伝説」をもとにしたんだ。



銘苺子 *2

「女物狂」

最愛の一人息子が誘拐された！我が子をさらわれ、正気を失った母の演技と感動の再会は胸が熱くなる。また、人さらいが子どもを連れて立ち寄った寺での僧たちとのユーモラスな掛け合いも見どころだ。



女物狂 *2

*2 写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会

玉城朝薫は、現代という総合プロデューサー。朝薫をはじめ当時の琉球国は、国家の発展を文化芸術で支えるという手法をとった。まさしく「守礼の邦」と呼ぶにふさわしいね。



動画で見たい!

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「文化デジタルライブラリー」
ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ
> 琉球芸能 組踊 > ようこそ組踊へ



「国立劇場おきなわ」
ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 組踊



組踊立方 国指定

●指定年月日 / 2006(平成18)年9月15日

国指定重要無形文化財

組踊を演じる人を「立方」といいます。立方は、琉球古語や日本の古い言葉を使ったせりふ(唱え)を用います。せりふは多くはなく、登場人物の気持ちは、琉球古典音楽と、音楽にのせた琉球古典舞踊とその所作(体の動かし方)で表わします。立方が見せる立つ姿勢や歩み、視線や顔の向き方など、高度に洗練された美しさは、琉球国の時代に磨き上げられた琉球古典舞踊の動きが基本となっています。また、組踊にはさまざまな教訓が含まれているので、立方は、あらすじや登場人物に対する深い理解と知識が必要なのです。

このように組踊立方は、芸術的価値が高く、組踊に欠くことのできない技法の一つとして、芸能史上特に重要な地位を占めています。



宮城能胤「執心鐘入」(写真提供:一般社団法人伝統組踊保存会)

もっと!知りたい

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「文化デジタルライブラリー」

ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ > 琉球芸能 組踊 > ようこそ組踊へ > 組踊の演出

●組踊立方クイズ●

舞台上で立方が1周したらどんな意味?

- ア 人物が入れ替わった
- イ 悲しみの大きさを表現
- ウ 目的地に到着して場面が変わった



☎: 255※

用語の解説

人間国宝

組踊や琉球舞踊など2人以上のパート(立方・歌三線など)で構成される芸能が国から重要無形文化財に指定される場合、集団で認定(総合認定)され、伝承者養成事業を行う。総合認定の保持者で特に高度な技芸を体得している者はさらに国から各個認定を受け、通称「人間国宝」と呼ばれる。

宮城能造(初代)

重要無形文化財「組踊 舞踊」(総合認定) 県指定無形文化財(沖縄伝統舞踊・琉球歌劇)保持者。1989(平成1)年83歳で没。

琉歌

日本の短歌に近い琉球独自の定型詩で、八・八・八・六の計三十音を基本形式(サンパチロクとも言う)とする。内容は叙情的で、三線などとともに歌われる。

紅型

工芸 P72参照

玉那覇有公

工芸 P60参照

八重山上布

工芸 P78参照



人間国宝

みやぎ のうほう
宮城 能鳳

1938(昭和13)年7月30日

佐敷村(現在の南城市)に生まれる。

1986(昭和61)年

国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)・舞踊

2006(平成18)年

国指定重要無形文化財「組踊立方」保持者(各個認定/人間国宝)

2009(平成21)年

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)・舞踊



古典舞踊「作田」宮城能鳳 (撮影: 神田佳明)

宮城能鳳は、幼少の頃から父の徳村磯輝に琉球古典舞踊の手ほどきを受け、1961(昭和36)年、組踊の名優として知られた宮城能造に師事して、琉球古典舞踊と組踊立方の修業を本格的に始めました。1967(昭和42)年、組踊「女物狂」の小僧役で組踊の初舞台をふみました。琉球古典舞踊の技法に裏打ちされた宮城の組踊立方の技法は、特に女方の演技に優れ、品格を備えた独自の技能は高い評価を得ています。

～舞踊「作田」の衣装～

紅型(びんがた)の人間国宝・玉那覇有公作。

八重山上布(やえやまじょうふ)に藤や菖蒲などが配

された涼やかな衣装。2015(平

成27)年横浜能楽堂企画公演

「琉球の美 技と技 — 人間

国宝」の衣装で「人間国宝」が踊

る一」の中で用いられた。



琉球人舞楽之図 (写真提供: 沖縄県立博物館・美術館)

組踊の「立方」は男性によるものです。琉球国時代は10代の芸能エリートイケメン達が担当した。今でいうアイドル扱いだね。

太平洋戦争では多くの方が亡くなって組踊存続の危機が訪れたけど、この時は女性も演者となり繋いでいったんだ。現在でも多くの女性が組踊に関わり、発展させているよ。

せりふ(唱え)は、独特の節があり、8・8・8・6の琉歌の形式。音階は琉球音階(ドミファンシド)が基本で、音程や旋律が役柄によって変

わるんだ。大きくは、按司(地方の領主)などの「男吟」や女性の「女吟」、少年の「若衆吟」などに分けられる。男吟は力強く、女吟はゆったりとした旋律で歌うように唱える。下の若々しい若衆吟の唱えをレツトライ!

(執心鐘入の若松の唱えの音階)

ソ シ シ シ ド ド ド ド (8)
わ ん や な が ぐ す く

ド レ レ レ レ ド シ ソ (8)
わ か ま つ い ど う や ゆ る

ソ シ シ シ ド ド ド ド (8)
め で い ぐ ど う あ て い ど う

ド レ レ ド シ ソ (6)
す い に め ぶ る

組踊音楽歌三線

国指定

●指定年月日 / 2005(平成17)年8月30日

国指定重要無形文化財

組踊における音楽(歌・伴奏)の担当を「地謡」といい、琉球古典音楽を基本にし、歌三線、箏、太鼓、笛、胡弓の楽器で構成されています。

歌三線は、組踊の各場面の背景を説明し、登場人物の心の内を切なく歌いますが、多くの場合、前奏なしで歌い出します。その他にも、切ない場面や緊張感のある場面では、立方(踊り手)のせりふ(唱え)が終わらないうちに歌い出す「仮名掛け」という演奏法や、動作に合わせて歌三線に細かな強弱をつけます。

このように、地謡の歌三線は、立方の演技やせりふ(唱え)、細かい物語の展開を支えるとても高度な芸芸が求められるのです。

用語の解説



奥浜思樹

県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流 三線」保持者。1981(昭和56)年92歳で没。

真境名由康

重要無形文化財「組踊 舞踊」(総合認定)、県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊 舞踊」保持者。1982(昭和57)年93歳で没。

宮里春行

重要無形文化財「組踊 三線」(総合認定)、県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流 三線」保持者。1992(平成4)年81歳で没。



城間徳太郎 (写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会)



西江春春 (写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会)



人間国宝

城間 徳太郎

1933(昭和8)年8月15日

那覇市与儀に生まれる。

1986(昭和61)年

国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)・三線

1999(平成11)年

沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」保持者・三線

2005(平成17)年

国指定重要無形文化財「組踊音楽歌三線」保持者(各個認定/人間国宝)

2009(平成21)年

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)・三線

城間徳太郎は、幼少の頃から学んでいた三線を、1950(昭和25)年に野村流の奥浜思樽に師事し、正式に学び始めました。1964(昭和39)年に組踊の名優、真境名由康に師事し、組踊音楽歌三線の指導を受け、芸を磨きました。作品に対する深い洞察によって、登場人物の心情や各場面の背景を繊細かつ豊かに表現する同氏の演奏は高く評価されるどころであり、前奏なしの歌い出しや、立方の台詞の最後にかかる歌い出しの的確さなど、高度な演奏技法には組踊に関わる実演家からも厚い信頼が寄せられています。

西江 喜春

1940(昭和15)年8月25日

伊平屋村に生まれる。

1999(平成11)年

沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者・三線

2001(平成13)年

国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)・三線

2009(平成21)年

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)・三線

2011(平成23)年

国指定重要無形文化財「組踊音楽歌三線」保持者(各個認定/人間国宝)

西江喜春は、伝統行事の盛んな生まれ故郷の伊平屋村で、幼少の頃から琉球古典音楽に親しみました。1963(昭和38)年に安富祖流の宮里春行に入門し、本格的に琉球古典音楽歌三線を学び始めると、すぐに頭角を現しました。琉球古典音楽の素養を身につけた上で、1967(昭和42)年、組踊の伝承者養成事業に参加し、組踊音楽歌三線の修業に励みました。同氏はたゆまぬ努力によって体得した確かな演奏技法と、豊かな声量、艶やかな声の響きと緩急自在の表現によって、役柄の心情を情感豊かに歌い出す表現力に優れています。また、各種歌い出しの的確さ、安定感でも高い評価を受けており、組踊に関わる実演家からの厚い信頼を得ています。

～創作舞踊音楽譜附工四～

それまでの舞踊曲工四は、代表的な古典舞踊ばかりで民謡調の速弾き曲などは収録されていませんでした。1983(昭和58)年に発行した城間が書いた工四は、高度な技術を要する速弾き曲を採用し、とても画期的でした。



(写真提供：国立劇場おきなわ)

～師匠お手製の歌詞集～

1972(昭和47)年の本土復帰とともに国の重要無形文化財となった「組踊」は、保持者が認定され、伝承者養成が始まりました。師匠の宮里とともに組踊の地謡を務めた際に使用した、師匠お手製の歌詞集が西江の思い出の品です。



(写真提供：国立劇場おきなわ)

くみおどりおんがくたいこ 組踊音楽太鼓

国指定

●指定年月日 / 2017(平成29)年10月2日

国指定重要無形文化財

くみおどり
組踊における音楽(歌・伴奏)の担当を「地謡」といい、琉球古典音楽を基本とし、うたさんしん こと たいこ ふえ こせうら がっきで構成されています。

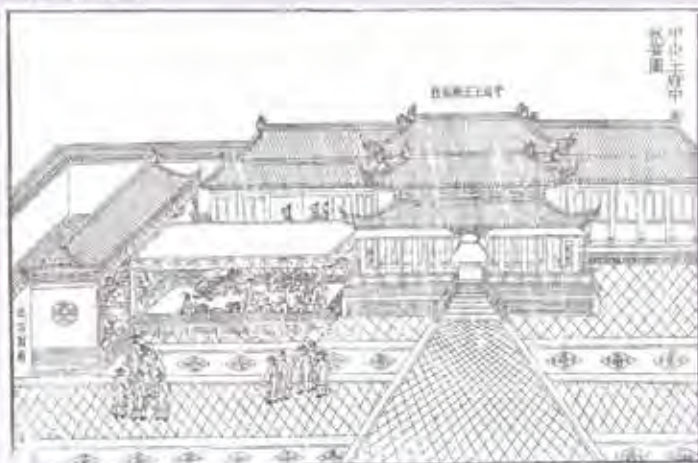
くみおどりおんがくたいこ
組踊音楽太鼓は、表現に深みを与え、ともに、時に単独で演奏されて、立方(踊り手)の動作にきっかけを与えたり、激しい感情の動きなどを的確に表現します。組踊のあらすじや、立方の演技との関わりなどに気を配りながら演奏されるもので、芸術上、芸能史上ともに価値が高く、重要な地位を占めています。

くみおどり たいこ
組踊では太鼓が一番の効果音。
太鼓の音と、ヤ声(掛け声)で立方の心情を表すんだ。



比嘉 聰 (写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会)

〈中秋宴図〉



徐葆光著 原田禹雄訳注『中山伝信録』榕樹書林 1999年

御冠船踊の舞台は、首里城の御庭に設けられた仮設舞台だった。正面は正殿、左の建物は北殿でその間に張出し舞台がある。舞台は麻製の紅型幕で仕切られ、地謡はこの麻幕を透かした舞台上の立方に合わせて音楽を奏でたんだ。



人間国宝

ひがさとし
比嘉 聡

1952(昭和27)年4月8日

久志村(現在の名護市)に生まれる。

2015(平成27)年

国指定重要無形文化財「組踊」(総合認定)・太鼓

2017(平成29)年

国指定重要無形文化財「組踊音楽太鼓」保持者(各個認定/人間国宝)

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)・太鼓

比嘉聡は、1972(昭和47)年、太鼓を島袋光史、歌三線を棚原忠徳に師事して本格的な修業を始め、1979(昭和54)年「万歳敵討」で、組踊音楽太鼓の初舞台を務めました。曲調や曲想を的確に捉え、端正で抑制のきいた同氏の演奏は、組踊を豊かに表現するものとして高く評価されています。加えて、島袋光史から学んだ組踊全般に及ぶ知識と、その上に確立された組踊に対する深い理解と見識は、伝統芸能界から厚い信頼が寄せられ、東京国立劇場や国立劇場おきなわの公演など、数多くの優れた舞台成果を世に示しています。

～愛用のパチ～

比嘉が琉球大学「郷土芸能研究クラブ」に入部した1年生の頃に手作りした、“デッキブラシのパチ”。どのようなパチが良いか試行錯誤して制作した結果、このパチが一番手になじみ、音も良く、長く愛用したということです。



(写真提供：国立劇場おきなわ)

もっと!知りたい

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「文化デジタルライブラリー」

ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ > 琉球芸能 組踊 > ようこそ組踊へ > 組踊の演出 > 音楽 > 太鼓



用語の解説

島袋光史

重要無形文化財「組踊音楽太鼓」(各個認定・人間国宝、総合認定)、国選定保存技術「組踊道具製作」、県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊 太鼓」、「沖縄伝統音楽野村流 太鼓」、「沖縄伝統音楽安富祖流 太鼓」保持者。2006(平成18)年86歳で没。

御冠船踊

冊封使が乗る船を御冠船と呼ぶことから、冊封使を歓待する宴をいう。

くみおどりどうぐ いしょうせいさくしゅうり 組踊道具・衣裳製作修理

国選定

●選定年月日／2009(平成21)年9月2日 ■保存団体／組踊道具・衣裳製作修理技術保存会

国選定
選定保存技術

組踊道具・衣裳製作修理は、重要無形文化財である組踊の上演に不可欠な杖、陣笠などの道具と、登場人物に合わせた伝統的な衣裳を製作し修理する技術です。

首里王府もこの技術を重視して「小細工奉行」という組踊道具製作専門の役人を置いて、その技術を保護していました。明治以降、琉球処分により王府が解体されたことで、技術の伝承が危ぶまれるようになりました。

組踊の道具と衣裳の製作、修理をするためには、高度な技術に加えて、組踊の各演目に対する深い理解が必要です。組踊道具・衣裳製作修理は、道具製作技術保持者であった島袋光史(故・組踊音楽太鼓の人間国宝)のもとで修行し、技術を習得した者を中心に構成されました。その技術者たちは、組踊道具・衣裳の研究や技術をきたえ磨き、受け継ぐ努力をしています。

小道具・大道具には、役柄の性別や身分などによって使い分けられる物のほかに、役柄の心理状態を表す物、旅や屋外といった場面を表す物などがあるんだ。花火が仕込まれている演目もあって見ごたえあり。



やくがら 役柄の身分を表す小道具

じんばおり
陣羽織

「二童敵討」に登場する阿麻和利という按司(領主)を象徴する小道具。



やくがら 役柄の心理状態を表す小道具

ささ
笹

「女物狂」では、狂い世といわれ、気がふれていることを表す。子どもを失った母親が半狂乱となった状態を表現。



ほんにやめん
般若面

「執心鐘入」で、宿の女が想いを寄せていた中城若松に拒絶され、鬼に変身するという執念が面に……怖い！日本の能や歌舞伎から影響を受けているといわれている。



こうだて ぬいぐるみ
向立・入道頭巾

「二童敵討」に登場する阿麻和利という按司(領主)を象徴する小道具。



だいたう しょうとう
大刀、小刀

主に按司や士族の役柄が使用する小道具。「二童敵討」では、阿麻和利の武人の魂を象徴している。



(写真提供: 絹踊道具・衣裳製作修理技術保存会)



かみ
髪かざり一式

赤花は女性、金花は元服前の男子の役柄で使用される。



だいだんせん
大団扇

「二童敵討」に登場する阿麻和利という按司(領主)を象徴する小道具。



はこめ
羽衣

「銘苅子」の天女をイメージした軽い布で作られている。



場面を表す小道具

はながさ
花笠

女が旅をする場面。



あみがさ つえ
編笠と杖

旅をする場面を表現。



さけぐ
酒具

「二童敵討」で阿麻和利が野遊びをする場面で使われる。



きやうちやく(チョーチャク)

身分の高い者の腰かけとして使われる。



(* 写真提供: 国立劇場おきなわ)

その他の小道具・大道具

ぼんしょう 梵鐘

「執心鐘入」で中城若松が身を隠す物として使われ、その後、稲の女が鬼に変わるときにも使われる。



にこせりや 懐刀

「二重敵討」で敵討ちを決意した鶴松と亀千代兄弟へ、母が父の形見の守り刀を渡す。



びんがたまく 紅型幕

舞台の間、背景の紅型幕は変わらない。一面に山や海、鶴や亀が描かれ、物語中全ての場面に対応できる。



(* 写真提供：国立劇場おきなわ)

しか 仕掛け花火

「孝行の巻」の大蛇には花火が仕込まれている。



(写真提供：一般社団法人伝統組踊保存会)

用語の解説



小細工奉行

琉球国時代において、王府の冠や衣装、壺・笠・提灯、表具類、さらに鞍具や駕籠(カゴ)などの細工物を制作した常設の部所。

琉球処分

明治政府が琉球を日本へ統合した一連の過程のこと。1872年に琉球国を琉球藩とし、1879年には沖縄県とした。

島袋光史

重要無形文化財「組踊音楽太鼓」(各個認定・人間国宝、総合認定)、国選定保存技術「組踊道具製作」、県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊 太鼓」、「沖縄伝統音楽野村流 太鼓」、「沖縄伝統音楽安富祖流 太鼓」保持者。2006(平成18)年86歳で没。

353 帕

地謡などがかぶる冠



もっと!知りた



もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「文化デジタルライブラリー」

ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ > 琉球芸能 組踊
> ようこそ組踊へ > 組踊の演出 > 小道具



ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ > 琉球芸能 組踊
> ようこそ組踊へ > 組踊の演出 > 役柄と扮装

まんがで見る

「組踊ってなに??」

文：おおしろ 画：大城さとし



※2019年の組踊300周年記念の漫画です。

すごいぞ組踊くみおどり

沖縄を代表する伝統芸能の「組踊」にはいろいろな「すごいこと」があります。このコラムではその中からいくつか紹介していきます。

その1 初演の年代とその作者がわかる

組踊は国の「重要無形文化財」として指定を受けている演劇です。組踊と同じ指定を受けている他の演劇には「能」「歌舞伎」「浄瑠璃」があります。どれも日本を代表する古典芸能ですが、初演した年代(1719年)とはじめに創作した人の名前(玉城朝薫)が正確にわかっている古典芸能はこの中でも組踊だけなのです。古典芸能の多くは、古くから伝承していることはわかっていますが、正確な記録が残っているということは、実はすごいことなのです。

その2 ◆メイドイン琉球、のオリジナル演劇

先ほど挙げた日本の古典演劇は、当たり前ですが、台詞などの言葉はすべて日本語です。しかし組踊は琉球の古典語を台詞と歌詞に使い、音楽は琉球古典音楽、所作の基本は琉球舞踊です。演劇を上演するために用いられているものはすべて琉球のオリジナルの文化そのものです。この点から組踊は世界にただひとつの◆メイドイン琉球古典劇、なのです。

その3 広い「琉球文化圏」で、現在も古い「首里ことば」で上演されている

組踊は現在、北は沖永良部島、そして南は与那国島までの広い範囲で上演されていることがわかっています。沖永良部島は現在、鹿児島県ですが昔は琉球国の一部でした。このように広い範囲で、現在でも「敬老会」や「豊年祭」などの地域行事で地域の人たちによって上演されています。つまり首里で生まれたひとつの演劇が離島地域まで伝承されて、きちんと上演されているのです。それだけではありません。琉球語(琉球方言)は奄美から与那国まで大きく分けると6つの違いがある言語です。組踊の台詞は古い「首里ことば」ですが、首里ことばと大きな違いがある地域でも、組踊を上演する時は、その台詞は「首里ことば」で上演されるのです。沖縄各地に伝承された古典芸能は変化しやすいのですが、組踊は台本が残されているので、台本どおりに上演することによって、きちんとした「首里ことば」による上演ができるのです。



組踊「雪払い」左から親泊興照(2代目)、宮城茂雄
(写真提供：国立劇場おきなわ)

その4 琉球国時代に

離島で創作された作品がある

琉球国時代に創作された組踊ですが、組踊には離島で独自の組踊が創作されるようになりました。代表的なものは、多良間島の「忠臣仲宗根豊見親組」や伊江島の「忠臣蔵」などです。首里で生まれた芸能をまねて、離島でもその地域の英雄の話や、浄瑠璃や歌舞伎の物語を参考にして組踊の創作活動が行われていたのです。

その5 琉球国時代の舞台芸能の中で

いちばん多くの作品が残されている

琉球国時代の舞台芸能には組踊の他に琉球古典舞踊があります。古典の琉球舞踊は、現在伝えられているだけで約25～30作品ありますが、組踊はそれよりも多い約70作品が伝えられています。琉球古典舞踊の作品の中には、組踊から踊りの場面を抜き出して作り直したものもあるので、それらを除くとさらに少なくなってしまう。組踊がたくさん伝承されている理由は、琉球国時代から「台本」が作られ、その「台本」が残されているおかげでたくさんの作品が現在に残り、そして上演することができるのです。また、この「台本」は、現在もなお、新たに発見されることがあります。皆さんの家の押し入れにも、もしかすると古い組踊の台本がひっそりと保管されているかもしれません。

ご紹介したように、組踊の「すごいこと」

はたくさんあります。しかし、ここに書ききれない「すごいこと」はまだまだあるので、私達の住む沖縄に古くから伝わる「組踊」は、琉球芸能のプロだけではなく、地域でも愛され、そして大切に伝承されてきました。組踊の台詞やその歌詞（琉歌）や物語からは、昔の琉球人（これは私達のおじいさんの、そのまたおじいさん？）の心が見えてきます。ただのお芝居と思われがちですが、私達の先祖が産み出して楽しんだ、世界にひとつしかない文化です。皆さんも組踊を見に行ったり、上演に参加したりすることで、組踊をより身近に感じてくれると嬉しく思います。



多良間村仲筋 組踊「忠臣仲宗根豊見親組」
(写真提供：多良間村教育委員会)



加那よ一天川：谷田嘉子 金城美枝子*



かせかけ：玉城節子*

琉球舞踊は、沖縄の歴史と伝統の中で芸術的に洗練された特色ある舞踊です。琉球国時代から伝わる古典舞踊と、明治以降に庶民の風俗や民謡を取り入れて創作された雑踊に大別されます。

古典舞踊は、琉球国で中国からの使者をもてなすために創作され、王府の保護のもと芸術的に洗練されました。歌三線を中心とする琉球古典音楽を伴奏に、役柄の性別や年齢により「老人踊」「若衆踊」「女踊」「二才踊」に分けられます。その中でも中心と

なるのは「女踊」で、足の運び、構え、腰(ガマク)の使い方、視線の動きや顔の向け方、手や指の所作(振り)などに独特の技法があり、感情を抑えた所作で、女性の心の動きを豊かに表現しています。

一方雑踊は、古典舞踊の技法をもとに明治以降に創作されました。軽快な沖縄民謡を伴奏として、庶民的な芭蕉布などを衣裳に使い、庶民の活力や生き生きとした感情を表現しています。

(*写真提供：国立劇場おきなわ)

もっと!知りたい

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「琉球文化アーカイブ」
ホーム>伝統芸能>沖縄の華 琉球舞踊



「国立劇場おきなわ」
ホーム>沖縄伝統芸能とは > 琉球舞踊

●紅型衣裳クイズ●

女踊は衣裳が素敵。特に紅型衣裳にホレホレするけど、この紅型の地の色って、演目の役柄年齢によって目安があるよ。次の①～④と色を線で結んでみよう!

- | | |
|----------------------|-------------|
| ①17～18歳：「かせかけ」「本買花」・ | ・(黄色)など |
| ②20代前半：「天川」「作田」「瓦屋」・ | ・(濃青・グレー)など |
| ③20代後半：「柳」「稲まづん」・ | ・(青・黄色)など |
| ④30代～：「諸屯」「伊野波節」・ | ・(白・ピンク)など |

解答①：`黄`②：`濃青`③：`青`④：`白`



古典舞踊

●老人踊

祝宴や芸能公演の幕開けに演じられる祝儀曲。代表曲の「かぎやで風」は、「かじゃでいふう」と読みます。琉球国時代には「老人老女」という演目名で国王や冊封使の前で演じられ、子孫繁栄と長寿を祝い、神々や国王に折りと感謝を捧げました。現代では、結婚式でよく演じられます。



老人老女(かぎやで風)：島袋光晴 宮城幸子*

●若衆踊

若衆とは、15～6歳以下の、元服前(成人前)の若者や少年のこと。希望に満ちた未来を象徴する若々しさが祝宴に相応しいということもあり、琉球国時代に多く踊られました。振袖の衣裳に、髪には花飾りをさすなど中性的な出で立ちでの優雅な舞は、冊封使の目を大いに楽しませたといいます。



若衆こてい節：又吉静枝(写真提供：国立劇場)

●二才踊

成人男性の踊り。黒の袷衣裳で、裾をあげて足に縦縞の脚絆を付けるのは、旅または外出の装いです。七五音又は七七音の和文調の口説(クドッチ)により、空手の動きも取り込んでキビキビと踊られます。土族や薩摩(今の鹿児島)の役人に受けが良く、薩摩藩をもてなす際に必ず披露されたといひます。



高平良万歳：佐藤太圭子(写真提供：大城洋平)

●女踊

女性を主題とした踊り。男女の愛を描いた作品が多く見られます。紅型衣裳やその優美な手の振りから、ルーツは神事を司る祝女(ノロ)であるといわれています。琉球国時代は若い土族の男性によって踊られていたため、艶のある色気の中にも凛とした品格を持つことが求められました。



諸屯：玉城秀子*

琉球舞踊

雑踊

明治の廃藩置縣以降、土族の役者たちは職をなくし町の芝居小屋で組踊や琉球舞踊を踊るようになります。やがて、庶民の風俗を題材として民謡などを用いた雑踊が創作されます。「雑」とは、中国雑技団などの「雑」と同じ意味で、これまでの古典舞踊のどの分類にも入らない踊りの総称です。



花風：志田房子(写真提供：個人)

琉球古典音楽

国指定

●指定年月日 / 2000(平成12)年6月6日

国指定重要無形文化財

琉球古典音楽は、かつて琉球国の士族たちを中心に受け継がれた伝統音楽です。これらは、14世紀末から15世紀に中国から伝わった楽器、三弦に由来する三線を中心に、箏や笛、胡弓、太鼓などが伴奏楽器に加わり発展してきました。特に三線は、弾きながら歌うので「歌三線」と呼ばれ、琉球古典音楽の中心となっています。

琉球古典音楽は、17世紀に湛水親方(幸地賢忠)がそれまでの優れた技法をまとめて洗練させ、18世紀に屋嘉比朝寄が伝統を磨き上げました。さらに、安富祖正元と野村安趙は、それぞれ今日につながる安富祖流と野村流を確立し、現代に伝統を継承しています。

このように、琉球古典音楽は、独唱もあれば、琉球舞踊や組踊の伴奏(地謡)として演奏することもあるという、宮廷音楽を支える重要な音楽なのです。

用語の解説



屋嘉比朝寄

(1716～1775年)18世紀の琉球音楽家で三線の楽譜・工工四の考案者。国王の命で薩摩に留学し、帰国後失明するも、三線の演奏法や唱法を広めた。有形文化財編p210に屋嘉比朝寄作工工四の掲載あり。

宮里春行

重要無形文化財「組踊 三線」(総合認定)、県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流 三線」保持者。1992(平成4)年81歳で没。

知念秀雄

県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流 三線」保持者。2012(平成24)年95歳で没。



照嘉名 朝一



中村 一雄 (写真提供：個人)



人間国宝

照喜名 朝一

1932(昭和7)年4月15日

知念村(現在の南城市)に生まれる。

1986(昭和61)年

国指定重要無形文化財「組踊」(総合認定)保持者・三線

1999(平成11)年

沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者・三線

2000(平成12)年

国指定重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者(各個認定/人間国宝)・三線

2009(平成21)年

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」(総合認定)・三線

照喜名朝一は、若い頃から村芝居の地謡で活躍していたが、1957(昭和32)年、安富祖流の宮里春行に師事し、本格的に琉球古典音楽の修行を始めました。1959(昭和34)年の新人賞をはじめ、数々の賞を受賞するなど、早くから実力が認められました。

類まれな音域と声量を備え、独自の表現世界を築き上げました。また、芸域は古典から民謡、琉球歌劇まで幅広く、他のジャンルとの交流演奏に挑戦するなど、多彩な活動を行っています。

中村 一雄

1946(昭和21)年6月24日

具志川村(現在の久米島町)に生まれる。

2001(平成13)年

国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)・三線

2008(平成20)年

沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽野村流」保持者・三線

2017(平成29)年

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)・三線

2019(令和元)年

国指定重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者(各個認定/人間国宝)・三線

中村一雄は、生まれ故郷の具志川村で幼少の頃から伝統音楽に親しみ育ちました。

1970(昭和45)年、野村流・野村義雄のもとで琉球古典音楽を学び始め、1973(昭和48)年、「子持節」の独唱で初舞台を務め、1974(昭和49)年には知念秀雄にも師事し、さらに技にみがきをかけました。歌詞と曲想を的確に捉え、味わい深い歌声によって情感豊かに表現する同氏の演奏は、高く評価されており、国立劇場おきなわ主催公演をはじめとする多くの舞台に出演しています。

～ハワイのキキ放送局で演奏～

照喜名は、本土復帰前まで、ノースウエスト航空の整備士として勤務していました。写真は、1961(昭和36)年ハワイ・ホノルルのラジオ局キキ放送で演奏した時のひとコマです。



(写真提供：国立劇場おきなわ)

～最初に使用した工工四～

中村が三線を始めた頃、三線を弾く人は「あしばー(遊び人)」とからかわれていました。そこで中村は、「やるなら本気で取り組もう」と、毎日出勤前1時間、帰宅後は24時まで練習し、車移動中は歌う、という三線漬けの日々を送りました。当時使用した工工四は、サトウキビの収穫の合間でも練習できるよう、表紙を厚紙で補強して持ち歩きました。所々残るシミや書き込みが、中村の一念取組の証です。



(写真提供：国立劇場おきなわ)

もっと!知りたい



「文化デジタルライブラリー」

ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ > 琉球芸能 組踊 > ようこそ組踊へ > 組踊の演出 > 音楽



「国立劇場おきなわ」

ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 三線音楽

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!

琉球古典音楽楽器の紹介

Q 琉球古典音楽の楽器を説明した次の文の空欄をそれぞれ答えてみよう。



さんしん 三線

14世紀頃に(①)から伝わった「三弦」がルーツ。今や沖縄を代表する楽器。当時は貴重な楽器として士族の男性しか演奏が許されていなかった。



三線の棹の製作工程
(写真提供：沖縄県三線製作事業協同組合)



三線に用いるヘビの皮
(写真提供：沖縄県三線製作事業協同組合)

三線の皮はヘビ製(県外では蛇皮線という俗称がある)だけど、ハブじゃないよ。ビルマニシキヘビというヘビで、輸入には許可が必要なんだ。ちなみに、16世紀に三線が日本本土に渡って「三味線」が生まれたけど、三味線は猫や犬の皮を張るよ。



たいこ 太鼓



太鼓は、組踊が作られた当初は伴奏に使われていなかった。いつ頃から使われ始めたのかは分かっていないが、能楽の影響を受けたのでは、といわれているよ。

「平太鼓」と「(②)太鼓」の2つの太鼓を一組にして、2本のバチを使って演奏している。



(国中⑤ ④/7 ③日本 ②始め ①: ①/5)



琉球古典音楽の楽器からも、琉球国時代に貿易が盛んだったことが伝わってくるね。



みえ 笛

素材は(④)で、横笛タイプ。
組踊「執心鐘入」のクライマックス
は、笛と太鼓が盛り上げ役！

三線については、「みんなの文化財図鑑(有形文化財編)」にも詳しい記事があるよ。興味のある人はぜひ読んでみてね。



こと 箏

18世紀頃、(③)から伝来した13弦の大型楽器。本土で作られた箏の弦を沖縄で張り替え(弦の太さ=本土:18、19番/沖縄:16、17番)ているよ。

こ ぎょう 胡弓

(⑤)から伝わった楽器で、方言ではクーチョーという。三線を小ぶりにした印象で、弓で奏すると音が細く高く、もの悲しい場面に良く合うんだ。



もっと!知りたい

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう！



「文化デジタルライブラリー」

ホーム > 舞台芸術教材で学ぶ > 琉球芸能組踊 > ようこそ組踊へ > 組踊の演出 > 音楽



「国立劇場おきなわ」

ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 三線音楽



沖縄伝統音楽湛水流

県指定

●指定年月日 / 1972(昭和47)年12月28日 ■保持団体 / 沖縄伝統音楽湛水流保存会



県指定 無形文化財

琉球古典音楽の歌は、「琉歌形式」と呼ばれる8・8・8・6の30文字や、「仲風形式」と呼ばれる5・5・8・6の24文字や7・5・8・6の26文字から作られている。そんな1つの歌にかかる時間は、3分の歌もあれば30分の歌もある。また、琉球古典音楽は単旋律で、オーケストラのように和音にはならず、1名で演奏しても100名で演奏しても、全員で同じ旋律を演奏しているんだ。



琉球音階<ドミファソシド>によるテンポはゆったりと音程も緩やか。すると……眠くなる～。どうしてこんなに緩やかなの? そうですね、首里城の城壁なども緩やかな曲線……。もしかして琉球国当時の気候や風土がそのようにさせたのかもしれないね。



(写真提供：沖縄伝統音楽湛水流保存会)

湛水流は琉球国時代に湛水親方(幸地賢忠)によって創始され、沖縄古典音楽に大きな影響を与えた流派です。野村流、安富祖流よりも演奏法、唱法(歌い方)の面で古い型を残しているといわれており、歌と三線の旋律がほとんど一緒に、声の出し方も自然的だといわれています。湛水親方以降、沢岷良沢、奥平朝喜、山内盛熹らによって現在まで受け継がれています。こんにち演唱されている曲は作田節、首里節、チャンナ節、諸鈍節、暁節の昔節5曲と、早作田節、揚作田節の端節2曲(端節には揚出し、下出しの2通りの演唱法があります)の7曲9種しかありません。

〈湛水流 略系譜〉

湛水親方



沢岷良沢



奥平朝喜



山内盛熹

この歌詞(琉歌)は湛水流作田節で歌われ、他の流派とは歌詞が違うんだ。



【作田節】
 歌詞…「九重のうちに つぼで露待ちゆす
 うれし」ときくの 花ごやゆる」
 読み…ククヌイヌウチニ ツイブディ
 ツイユマチュスイ
 ウリシグトウ チクヌハナドゥヤ
 ユル
 意味…王城の内庭にやがて咲こうとして、
 露を待っている蕾は
 嬉しいことを聞くといい縁起の
 良い菊である。

用語の解説



湛水親方(幸地賢忠)

(1623～1683年)17世紀の琉球王国における音楽家で琉球古典音楽の祖。三線の基礎を築いたことでも知られる。

揚出し

琉球古典音楽や琉球民謡における演唱法のひとつで、旋律の出だしを「高音」から始めるバージョン。

下出し

揚出しとは逆に旋律の出だしを「低音」から始めるバージョン。湛水流の端節2曲には、それぞれ揚出しと下出しがある。

もっと!知りたい

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「国立劇場おきなわ」

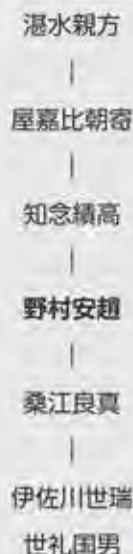
ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 三線音楽



沖縄伝統音楽(古典音楽)は琉球国時代に湛水親方(幸地賢忠)によって基礎がつけられ、その後、屋嘉比朝寄から知念績高に伝承されます。知念の優秀な弟子、野村安趙は、知念の技を受けて独自の流派をつくりました。

また、古典音楽に工夫を加え、多くの人に親しまれるようになりました。この野村安趙の系統が現在の野村流で、桑江良真らによって継承され、普及しました。1935(昭和10)年には、伊佐川世瑞と世礼国男によって『声楽譜附野村流工工四』が作られ、初めて声楽(メロディー)が加えられました。これにより三線音楽の普及に貢献しています。野村流は沖縄の三線音楽の一つとして、芸能文化の向上に尽くしています。

〈野村流 略系譜〉



用語の解説



湛水親方(幸地賢忠)

(1623～1683年)17世紀の琉球王国における音楽家で琉球古典音楽の祖。三線の基礎を築いたことでも知られる。

屋嘉比朝寄

(1716～1775年)18世紀の琉球音楽家で三線の楽譜・工工四の考案者。国王の命で薩摩に留学し、帰国後失明するも、三線の演奏法や唱法を伝えた。有形文化財p210に屋嘉比朝寄作工工四の掲載あり。

声楽譜附野村流工工四

伊佐川世瑞(1872～1937年)と弟子の世礼国男(1897～1950年)によってまとめられた全四巻による工工四。琉球古典音楽の口伝による継承から初めて文字でまとめられた。

〔伊野波節〕

歌詞…「伊野波の石こびれ 無蔵連れて登る

にやへも石こびれ 遠さはあらな」

読み…ヌファヌイシクビリ ソチリティヌブル

ニヤヒンイシクビリ トウフサアラナ

意味…伊野波の石ころ道を、愛しい人を連れて登って行く。難儀な坂道だが、恋人と一緒に時は、その石ころ道ももつと遠ければいいなあ、と願うのである。



もっと!知りたい



もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「国立劇場おきなわ」

ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 三線音楽

沖縄伝統音楽安富祖流

県指定

●指定年月日 / 1972(昭和47)年12月28日 ■保持団体 / 沖縄伝統音楽安富祖流保存会



県指定無形文化財



近年まで200年以上にわたって
声楽譜せいがくふを使用せず、師匠ししやうによる
口承こうじやうによって受け継がれてきた
安富祖流あふそりゅう。独特どくとくの節回しふしまわや手様ていよう
(手の動かし方、間合いの取り方)を特徴としている。



(写真提供：沖縄伝統音楽安富祖流保存会)

〈安富祖流 略系譜〉

- 湛水親方
- |
- 屋嘉比朝寄
- |
- 知念績高
- |
- 安富祖正元
- |
- 安室朝持
- |
- 金武良仁

沖縄伝統音楽(古典音楽)は琉球国時代に湛水親方(幸地賢忠)によって基礎がつけられ、その後、屋嘉比朝寄から知念績高に伝承されました。知念の優秀な弟子、安富祖正元は独自の才能により流派をつくりました。その系統を引くものが現在の安富祖流です。安富祖正元は師の知念績高の技法を忠実に継承し、その後、正元の弟子の安室朝持によって演奏法が体系化され、金武良仁によって完成されました。安富祖流は沖縄の三線音楽の一つとして、沖縄の芸能文化の向上に尽くしています。

用語の解説



湛水親方(幸地賢忠)

(1623～1683年)17世紀の琉球王国における音楽家で琉球古典音楽の祖。三線の基礎を築いたことでも知られる。

屋嘉比朝寄

(1716～1775年)18世紀の琉球音楽家で三線の楽譜・工工四の考案者。国王の命で薩摩に留学し、帰国後失明するも、三線の演奏法や唱法を広めた。有形文化財編 p210に屋嘉比朝寄作工工四の掲載あり。

野村流の音楽と比較すると、同じ曲でも微妙に歌の旋律が異なっており、安富祖流と野村流それぞれの流派と一緒に演奏できる曲もあれば、できない曲もあるんだ。



【仲風節(二揚仲風節)】

歌詞:「誠一つの 浮世さめ

のよで云言葉の あはぬおきゆが」

読み:マクトウフイトゥッチヌ ウチユサミ

ヌテイイクトウバナ アウンウチユガ

意味:この浮世は誠一つが大事だ。誠をつくし

て語っていく言葉が、相手に通じないはずは無い。

二揚曲の仲風節や述懐節などは、安富祖流独特の抑揚・節回し・手様等が所々にあり、歌三線を志している人の歌いたい曲の一つなんだ。



もっと!知りたい



もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「国立劇場おきなわ」

ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 三線音楽



沖縄伝統音楽箏曲

県指定

●指定年月日 / 1972(昭和47)年12月28日 ■保持団体 / 沖縄伝統音楽箏曲保存会



沖縄伝統音楽箏曲は1702(康熙41)年、
 稲嶺盛淳が薩摩(現在の鹿児島)で服部清
 左衛門から八橋流を学び、それを琉球に広
 めたのが始まりといわれています。その後、
 仲本興嘉・興斉親子が継承し、1838(道
 光18)年第二尚氏十八代尚育王の冊封使を
 もてなすための祝いの席で初めて三線音楽
 の伴奏楽器として用いられました。興斉以
 後、手登根順寛、伊波興厚、仲里陽史子ら

を経て現在に至っています。今日では、琉
 球古典音楽の伴奏として聞く機会が多いの
 ですが、唄物と段物が日本本土から伝わっ
 ています。唄物と段物は、本土の八橋流、
 筑紫流の影響があるといわれていますが、
 この両派が衰えている現在、沖縄の箏曲は、
 日本の芸能史上からも重要な価値を持って
 います。

県指定無形文化財



〈琉球箏曲 略系譜〉

稲嶺盛淳



仲本興嘉・興斉



手登根順寛



伊波興厚



仲里陽史子

用語の解説

唄物

歌を伴う箏の楽曲、小唄
 で、琉球古典箏曲では「船
 頭節」「対馬節」「源氏節」の
 三曲。

段物

歌を伴わない箏の器楽曲
 で、琉球古典箏曲では「滝
 落管捲(すががき)」「地
 管捲」「江戸管捲」「拍子管
 捲」「佐武也管捲」「六段管
 捲」「七段管捲」の七曲。

日本芸能史を知る上で貴重な
 琉球古典箏曲だけど、技芸の
 伝承が危うい状況にある。その
 ため文化庁から、2016(平成
 28)年に「記録作成等の措置を
 講ずべき無形文化財」として選
 択され、記録保存調査が行わ
 れているんだ。



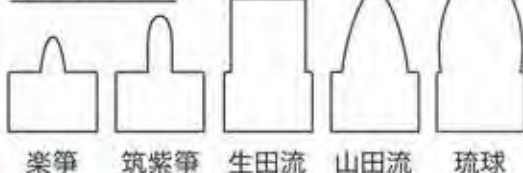
こと つめ
箏の爪

箏は、象牙を素材とした爪を右手三指（親指・人差し指・中指）につけて演奏する。爪の形は、生田流の長方形の角爪と山田流の楕円形に近い丸爪の中間的な形をしており、長方形の角が自然に丸くなったものを用いる。これは筑紫箏や八橋流の爪が大型化したものと考えられていて、山田流よりも厚みはなく薄いのが琉球箏の爪だ。



箏には、ナイロン製糸や動物（馬）の毛を使っているけど、昔は絹糸をつかっていたんだよ。

箏の爪の違い



この曲は、平安時代の貴族や歌人の社会を描いたもので、琉球箏曲代表する曲だ。品格と風格を醸し出すゆったりとした曲想で、演奏やコンクールなどに選曲される権威ある曲なんだ。



【源氏節】
 歌詞…源氏 狭衣ヤ 伊勢物語
 数の書冊の 恋の文
 読み…ゲンジサゴロモヤ イセモノガタリ
 カズノシヨサツノ コイノフミ
 繰返し
 (シヨサツノカズノ カズノシヨサツノ
 コイノフミ)
 意味…源氏物語、狭衣物語、伊勢物語は実に
 多くの恋の文が語られているものだ。



(写真提供：沖縄伝統音楽箏曲保存会)

沖縄伝統舞踊

県指定

●指定年月日 / 1972(昭和47)年12月28日 ■保持団体 / 沖縄伝統舞踊保存会



かぎやて風：山田多津子*

県指定無形文化財



稲まづん：玉城千枝*



下り口説：山城洋子*



女特牛節：渡嘉敷守良*

沖縄伝統舞踊は、明治以前に創作された古典舞踊のことをいいます。古典舞踊は首里王府の保護のもとで、踊奉行の手によって創作され、宮廷舞踊として発展しました。主に冊封使をもてなすための祝いの席で演じられ、およそ30の演目があります。内容は老人踊、若衆踊、二才踊、女踊、打組

踊などに分けられます。所作(振り)は沖縄の民俗舞踊を基礎にしていますが、本土の舞踊の影響も見受けられます。沖縄伝統舞踊は我々の祖先が残した貴重な財産であり、その芸術性、芸能史的価値は、日本の芸能の中でも重要視されています。

(* 写真提供：沖縄伝統舞踊保存会)

Point!



ココがポイント!

「打組踊」美女と醜女のコミカルな動きに注目!

古典舞踊で唯一の打組踊「醜童」は、琉球舞踊で唯一、仮面を使った舞踊だ。美女と醜女の衣装や振り付けの極端な対比と、ジャンプや尻をなでる所作は俗すぎて笑いを誘う。冊封使を歓待する宴や江戸上りでも披露され、宴の最後に踊られることから「御後段踊り」とも呼ばれている。

2つの役柄が呼吸を合わせ、多種多様な手技、リズムを組み合わせた踊りは絶妙で、笑いを越えた感動を覚えるだろう。打組踊「醜童」は、古の琉球を色濃く残す、貴重な舞踊なのだ。



醜童(左から石川直也、金城真次、宮城茂雄、大浜暢明)
(写真提供: 国立劇場おきなわ)



斉唱 御縁節・金武節
(写真提供: 沖縄伝統舞踊保存会)

もっと!知りたい



もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「琉球文化アーカイブ」

ホーム > 伝統芸能 > 沖縄の華 琉球舞踊



「国立劇場おきなわ」

ホーム > 沖縄伝統芸能とは > 琉球舞踊



用語の解説



踊奉行

琉球国時代にあった、舞(行事)を開催する際の監督・指導を行う臨時の役職。冊封使の接待も担当するなど重要な役割を担った。

冊封使

琉球の国王が代わるごとに、中国の皇帝から国王を認めてもらうための使者。

打組踊

男女や年齢、身分差、立場の違いなど、異なる組み合わせで踊る琉球舞踊。

や え や ま こ て ん み ん よ う 八重山古典民謡

県指定

●指定年月日／1983(昭和58)年3月31日 ■保持団体／八重山古典民謡保持者協会



(写真提供：那覇八重山古典民謡保存会)



(写真提供：八重山古典音楽安室流協会)



(写真提供：八重山古典音楽安室流保存会)

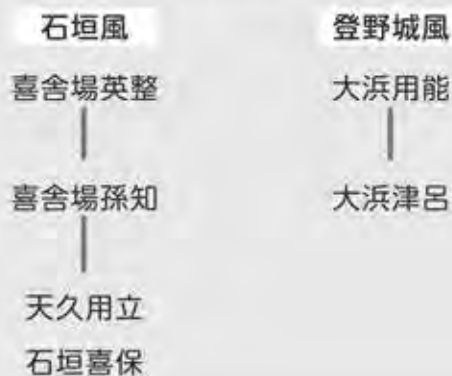
県指定無形文化財

八重山には、ユングトゥ、アヨウ、ジラバ、ユンタなどの地域に根ざした古謡(古い歌)があります。そこに琉球国の士族がもたらした三線が伝わり、古謡に三線の伴奏をのせた「節歌」が作られました。この音楽を現在では、「八重山古典民謡」として伝えています。

これらの音楽は、安室孫師の弟子の喜舎場英整が1884(明治17)年に編集した「八重山歌工工四」(96曲採譜)と、大浜用能が1885(明治18)年に編集した「八重山歌工工四」(78曲採譜)が刊行されたことによって本格的に普及しました。以降、喜舎場孫知、天久用立、石垣喜保、大浜津呂らを経て、現在に受け継がれています。八重山古典民謡は、八重山という地域に限らず、広く一般に普及しており、明治40

年代に完成した琉球歌劇や雑踊など、他の芸能にも盛んに取り入れられています。無形文化財(芸能)に指定されている野村流、安富祖流、湛水流、箏曲とともに沖縄音楽史及び沖縄芸能史上重要な地位を占めています。

〈八重山古典民謡 略系譜〉



～八重山の古謡(古くから伝わる歌)～

八重山古謡はユングドゥ、アヨウ、ジラバ、ユンタなどがあり、昔の庶民生活に根付いていた。いずれも伴奏楽器を使わず、人の声だけで歌い継がれてきたものが多い。これら古

謡の内容は生活全般にわたり、人びとの生き様が肌を通して伝わってくる。八重山諸島の音階は、日本の雅楽と共通する律音階<ドレファソラド>が多く使われている。



アヨウ：祭祀儀礼の場で、斉唱(皆で歌う)の形をとり、対句を連ねて、ゆったりと厳かに歌われる。豊年祭や種子取り(民俗のページ参照)などの豊作祈願の祭祀で斉唱される。家の新築や結婚、旅立ちなどの際にも歌われる。

ジラバ、ユンタ：共同作業の場で歌われることが多いことから、1句ごとに息継ぎのための囃子が入る。斉唱の形をとるのがほとんど。

ユングドゥ：祭祀の場で神女や共同体の代表たちによって五穀豊穡を祈願し、航海や恋を歌う。メロディーをともなうこともあるが、ほとんどは言葉だけで唱える。独り狂言の性格もあり、言葉の巧みな使いわけが優れた味わいになっている。

日本音楽の基本となる4つの音階

ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ

民謡音階

ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ

律音階

ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ

都節音階

ラ シ ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ

琉球音階



テンサー節などは、この律音階だけで作られているんだよ。

用語の解説 |

雅楽
日本古典音楽の一種。奈良時代以降の神楽(かぐら)や大和舞など日本固有の歌舞。

律音階<ドレファソラド>
日本の代表的な音階。雅楽・声明(しょうみょう)など中世以前の音楽で多用される。国家「君が代」はその例。

狂言
日本古典芸能の一種。こっけいで笑いが持ち味のせりふ劇や芝居。八重山諸島ではキョングンと呼ばれ、広く演劇や芸能をさす場合もある。

や え や ま で ん と う ぶ よ う 八重山伝統舞踊

県指定

●指定年月日 / 2004(平成16)年5月14日 ■保持団体 / 八重山伝統舞踊保存会



揚古見ぬ浦節：喜舎場慶子



上原ぬ島節：大盛和子

県指定無形文化財

八重山伝統舞踊は、八重山地方(石垣・西表・与那国などの島々)において世果報を祈るために行われた儀礼の奉納(神に捧げる)芸能として発展してきました。

近世以降、首里王府との交渉がたびたび行われるようになると、日本本土の芸能も含め、島外からもたらされた芸能文化の影響を受けるようになりました。近代以降になって舞台化が進むとともに、八重山人々の美意識や好みに合う形で洗練され、今日まで継承されてきました。

八重山伝統舞踊は素朴な所作(体の動かし方)が基本で、美しい音と詩にのせ緩やかなテンポで踊られます。神をたたえる「ウガミティー」(拝み手)「カミティー」(戴

き手)などの所作や腰の上げ下げに特徴がみられ、「赤馬節」、「古見の浦節」などにみられるような地域に根付いた演目があります。八重山伝統舞踊は、現在、八重山という地域のみならず、県内外において広く鑑賞・愛好されており、沖縄芸能史上重要な地位を占めています。



赤馬節(写真提供：秀風会八重山民俗舞踊研究所)



鳩間節：新城知子^{*2}



くいめばな節：登野城米子^{*1}



たらくじ節：宮城千代^{*2}



まんのうま節：與那國久枝^{*1}

用語の解説



世界報

沖縄・奄美において弥勒神(ミルク神)がもたらす平和で豊かな理想的な世界。

(^{*1}写真提供：国立劇場おきなわ)

(^{*2}写真提供：八重山伝統舞踊保存会)

【鷺ぬ鳥節】

歌詞

読み

「綾羽ば 生らしようり アヤパニバ マラシヨウリ

びる羽ば 産だしようり ブイルパニバ スイダシヨウリ

鷺ぬ鳥 世願ゆな鷺 バスイヌトウルイ ヨニガユナバスイ

正月ぬ 早朝 ショングズイヌ スイトウムテイ

元日ぬ 朝ばな グワンツイヌ アサパナ

鷺ぬ鳥 世願ゆな鷺 バスイヌトウルイヨ ニガユナバスイ

東かい 飛びついで アガルカイ トウツイイケ

太陽ばかめ 舞いついで テイダバカメ マイチイケ

鷺ぬ鳥 世願ゆな鷺 バスイヌトウルイヨニガユナバスイ

意味・綾羽をかえして 美留羽をかえして

正月の朝 元日の朝初

東天へ飛んで行き 太陽を頭上にして舞って行き

(鷺がアコウの大樹に巣を作り、卵を産んで雛をかえし、

元日の朝、東の空へ向かって飛び立つ、という雄大な

スケールの節歌。)

この曲は、本島の「かぎやて風」のように八重山の祝いの席で座開きとして良く披露される。全部で8番までの曲だけど、特に6から8番までの歌詞が使われるよ。





奥山の牡丹



奥山の牡丹



奥山の牡丹



泊阿嘉*

明治時代になり、首里王府の保護を失った宮廷芸能は、一般民衆の娯楽として上演されていきます。その中で、琉球歌劇は「組踊」を基礎にして芝居の世界から生まれました。

物語を「せりふ、歌、踊り」で進めるといふ組踊の形式を残しながら、題材に一般庶民の生活を取り入れ、音楽に各地の民謡や古くから伝わる歌を用いるなど、より民衆に受け入れられるよう工夫が加えられました。

明治から昭和の初めにかけて多くの優れ

た作品が創作されました。中でも我如古弥栄作の「泊阿嘉」、伊良波尹吉作の「薬師堂」、「おくやま 奥山の牡丹」、真境名由康作の「伊江島ハシドー小」などは琉球歌劇を不動のものにした名作です。

歌劇の内容は庶民の日常生活を描いたものや恋愛ものが多く、悲恋物語が人気を呼んだ。「つらね」というハ・ハ調のリズムでつづられたセリフの節回しは、歌劇の特徴のひとつ。劇中のクライマックスで切々と訴えてくるつらねにグッと引き込まれるよ。



(* 写真提供：琉球歌劇保存会)

琉球歌劇の歴史略年表

琉球歌劇は、外国の「オペラ」とも日本の「松竹歌劇」や「宝塚歌劇」とも違い、一つの物語のために新曲や舞踊の振付をせず、古典の琉球音楽や琉球舞踊を劇に織り込み、セリフにあたる歌は、古典音楽や民謡でつないでいくという特色があります。明治から戦後にかけての娯楽の少ない時代、大衆から圧倒的な人気を集めた琉球歌劇の舞台には、沖縄古来の風情や人情があふれています。

元号	沖縄	琉球歌劇	代表作	実演家
明治	1879 沖縄県設置 (琉球処分) 	・カマジー芝居(こもがけの仮小屋劇場)が始まる ・那覇東町に沖縄初の木造劇場が建つ ・那覇辻町に演芸場が建ち、各劇団が競い合う	1910 「泊阿嘉」 1912 「薬師堂」	玉城盛重 新垣松含 伊良波尹吉
大正	戦争で劇場は全て消失した。終戦直後は、舞台上にしか屋根が無い屋外劇場で、観客はカッパやかさで風雨をしのぎ観賞したが、大盛況だった。	・那覇西新町に大正劇場、上之蔵町に新天地劇場が建つ	1914 「奥山の牡丹」 1924 「伊江島ハンドー小」	玉城盛義(初代) 波嘉敷守良 儀保松男
昭和	1945 太平洋戦争(沖縄戦) 1972 沖縄返還 1975 沖縄国際海洋博覧会	・県内各地に露天劇場が立ち並ぶ	1934 「中城情話」	真境名由康 島袋光裕 親泊興照
平成	1992 首里城正殿復元 2000 九州・沖縄サミット	・新しい劇団が次々と誕生した。女性だけの「乙姫劇団」も生まれ、華やかで気品ある舞台は好評を博した。	1989 県指定無形文化財に指定・保持者1次認定(4名) 1990 沖縄県立郷土劇場完成 1999 2次認定(35名) 2004 国立劇場おきなわ開館 2013 3次認定(8名)	宮城能造(初代) 大宜見小太郎 真喜志康忠 登川誠仁(地謡)
令和		2020 4次認定(9名)	現在も人々に愛される琉球歌劇。若い世代の実演家達も活躍している。	

※戦後の高度経済成長期に映画やテレビが大衆に浸透するにつれ、琉球歌劇の上演回数も減っていききました。しかし、琉球処分や沖縄戦と、幾度も存続の危機を乗り越えた琉球歌劇を保存・継承することは、沖縄の伝統芸能はもちろんのこと、しまくとぅばを守ることにもつながります。

知っておきたいお話

よんだい かげき 四大歌劇のみどころ

かげき とくまいあか がねこやえい 歌劇『泊阿嘉』(1900年 我如古弥栄 作)

沖繩版「ロミオとジュリエット」と言われる悲恋物語。クライマックスのつらねに涙が止まりません。

〈あらすじ〉

久茂地村阿嘉の嫡子(跡継ぎ息子)・樽金は、海辺で出会った泊村伊佐殿内の一人娘・思鶴に一目惚れし、思鶴の家近くの泊高橋に九十九夜通いつめ、その思いを恋文に託しました。哀れに思った思鶴の乳母は、預かった恋文を思鶴に手渡しますが、思鶴は中身を読みもせず乳母の目の前で焼いてしまいます。

しかし、思鶴が焼いたのは恋文の一部で、残った本文をこっそりと読み、二人



泊阿嘉のつらねによる遺言状を読むシーン*

は相思相愛になります。

喜びもつかの間、樽金は、将来を心配した父によって

伊平屋島勤めを命じられてしまいます。仲を引き裂かれた思鶴は、樽金に会えない苦しさから病に伏せり、ついに帰らぬ人になりました。

伊平屋島勤めから戻ってきた樽金は、喪服姿の思鶴の乳母から遺言状を受け取り、信じがたい現実に茫然となります。そして、最愛の人がこの世にいないという絶望から、思鶴の墓前で息絶えてしまうのでした。



泊阿嘉*

(* 写真提供：琉球歌劇保存会)

かげき やくしどう いら はいんきろ 歌劇『薬師堂』(1912年 伊良波尹吉 作)

草双紙(江戸の娯楽本)「恋路の文」をベースにして「泊阿嘉」という悲劇が生まれた一方、「薬師堂」は明るい恋愛歌劇となりました。

〈あらすじ〉

四大琉球歌劇のなかで、唯一ハッピーエンドの歌劇「薬師堂」。

旧暦3月3日の3月遊びの日、薬師堂の浦で浜下りをしていた娘達の中で、ひときわ美しい初岡のチル小に一目ぼれした白川の白露は、チル小を口説き、恋仲になります。チル小に夢中になりすぎる白露の様子に、将来を心配したチル小と乳母は、白露が学問に励み、出世したのち結婚できるように、チル小が死んだ芝居をうちます。乳母は、白露の出世を願うチル小の遺言状を悲しむ白露に



渡すのです。チル小の願いを励みに、白露は見事一番科(役人採用試験)に合格し、チル小の位牌に報告します。もうこの世に未練は無いと白露が命を絶とうとした時、チル小が現れ、二人は感動の再会を果たします。見守っていた白露の父は、出世した白露を褒め、結婚を認めます。こうして二人はめでたく結ばれたのでした。

歌劇『奥山の牡丹』(1914年 伊良波尹吉 作)

恋人や息子のために犠牲になる母の姿は、女性たちの圧倒的な支持を集めました。

〈あらすじ〉

名門士族である首里平良殿内の嫡子・三良は、愛人を溺愛している父に母と共に家を追い出され、田舎で百姓をしながら貧しく暮らしていました。ある夜三良は、身分の低い勢頭の娘・チ



奥山の牡丹

ラーに恋をし、二人の間には男の子が生まれます。しかし、出産後に身分の違いを知ったチラーは、出世の妨げになるからと赤子を三良に託し、姿を消します。

20年後、三良とチラーの息子は山戸と名付けられ、立派に成長していました。自らの出生の秘密を知った山戸は、母を求めて島中を探す旅に出ます。

ついに山戸は、山原の山奥で独り暮らしをしている母・チラーを探し当て、再会を果たします。山戸は、ともに首里で暮らそうと母を必死に説得するも、卑しい身分である自分の存在が息子出世の妨げとなると考えたチラーは、崖から身を投げ、命を絶ってしまうのでした。

歌劇『伊江島ハンドー小』(1924年 真境名由康 作)

『伊江島ロマンス』という作品に真境名が手を加え、本格的な歌劇に仕上げました。

〈あらすじ〉

沖縄本島の北部、国頭村辺士名にハンドー小という素朴で美しい娘がいました。ある日、台風で遭難した加那(伊江島出身)を助け世話することになりますが、そのうち二人は、お互いの心を通わせる深い仲になっていきます。ところが、加那には伊江島に妻がおり、迎えに来た妻に連れ戻され、ハンドー小には何も言わず伊江島に帰ってしまいます。

互いの愛を誓い合った加那に心変わりがあるはずはないと信じるハンドー小は、従妹のマチ小と船頭主の計らいで伊江島に渡ります。しかし、信じていた加那や島の人たちに冷たくされ、ひどい仕打ちを受けたハンドー小は、伊江島

タッチュー(城山)で自らの髻(入れ髪)で首を絞めて自殺してしまいます。

その後、加那の一家はハンドー小の亡霊に悩まされ、ついに一家全員死に絶えてしまいました。



おきなわ から て こぶじゅつ 沖縄の空手・古武術

県指定

●指定年月日／1997(平成9)年8月8日 ■保持団体／沖縄の空手・古武術保存会

かつて沖縄は琉球国として、中国をはじめ諸外国との交易や交流を盛んに行い、独自の文化を形成しました。沖縄の空手・古武術の起源は不明ですが、主に琉球国時代に中国から伝来した武術と、琉球に元々あった武術が交じり合って調和し、現在に伝わったと考えられています。

空手は近代になって、松村宗棍(1809～1899年)により「首里手」が、松茂良興作(1829～1898年)により「泊手」が、東恩納寛量(1853～1915年)により「那覇手」が、昭和初期に上地完文(1877～1948年)により「上地流」が体系化されました。一方、古武術は主に中国より伝来したと考えられる武器や、庶民の生活用具から考案された武器を用いる技として、昭和初期に屋比久孟伝(1878～1941年)や平信賢(1897～1970年)などによって伝承され、体系化されました。

沖縄の空手・古武術は現在、護身術として、また心身修養の手段として、その価値は国際的に認められ、世界的な広がりを持つまでに発展しています。

空手の誕生については不明な点が多い。それは、門外不出(他人に見せたりしない)で親から子への一子相伝(一人の子だけに伝えること)、または師から弟子への口伝が主な秘伝武術だったため、残っている資料が少ないからなんだ。



空手歴史年表

時代		空手
日本	琉球 沖縄	
室町	三山時代	<ul style="list-style-type: none"> ・門外不出、一子相伝による体系化。 ・土族のたしなみ。 ・手と中国拳法融合形成。 ・中国拳法との交流。
	琉球王国	
戦国	1429～1879	
桃安	山土	
江戸		「唐手(トーディー)」 「首里手」「那覇手」「泊手」
明治		【大衆化】 「唐手(からて)」
大正		
昭和	沖縄県	「空手(からて)」
	1879～	
平成		

県指定 無形文化財

空手・古武術の流派

① 首里手・泊手系

琉球国時代に首里や泊の士族のたしなみとして発達したとされ、護身や心身を鍛えることを目的とする伝統的な武術として現代まで継承され広く普及しています。礼節を重んじ平和を尊ぶ沖縄の伝統武術です。

〈特徴〉

- ・伝統的な型の鍛錬を中心に、小手鍛えや約束組手（決まった手順で技を掛け合う）など、様々な稽古法が体系化されており、年齢や性別に関係なく、一人でも場所を選ばずに稽古ができます。
- ・稽古には、チーシー（錠石）、サーシー（石錠）、巻藁、巻石、鉄下駄等の独特な器具も用いられ、特に巻藁による鍛錬が重視されます。
- ・技法の特徴は、瞬発力、俊敏性、自然な呼吸、力の取り方（内から外にとる）などです。

〈代表的な担い手〉

しょうりん流系（小林流、松林流、少林寺流、一心流、少林流 など）

（* 写真提供：沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課）



首里手 眞栄城守信*



首里手 伊波清吉*

沖縄県では、学校体育で空手の「普及形」を学ぶことが多い。「普及形」は、1941（昭和16）年に初心者向けの簡単な形として創作されたものなんだ。



もっと!知りたいたい

もっと知りたいときには、QRコードをスマホで読み取ってウェブサイトに行ってみよう!



「沖縄空手会館」

トップ > 空手の歴史

●空手クイズ●

次の〇〇にあてはまるひらがな3文字は何？
「空手に〇〇なし」が沖縄空手の理念。



正解：なま

空手・古武術の流派

② 那覇手系

琉球国時代に那覇の士族の間で発達し、東恩納寛量によって体系化されたといわれています。護身や心身を鍛えることを目的とする伝統的な武術として現代まで継承され広く普及しています。沖縄の歴史・風土に育まれた、礼節を重んじ、平和を尊ぶ伝統武術です。

〈特徴〉

- ・サンチン(三戦)を基礎とする呼吸法を重視した伝統的な12の型の鍛錬を中心に、準備運動、補助運動、指先を含む手足の鍛えなど、様々な稽古法が体系化されており、鍛錬には巻藁やカメ等の独特な器具も用います。
- ・力強さと柔らかさの双方を重視した、多様な接近戦の技法は武術性が高く、鍛錬した手足による全身を使った俊敏な突きや蹴りを追求します。型の中にこうした技が含まれており、一人でも場所を選ばずに稽古ができます。

〈代表的な担い手〉

剛柔流



那覇手 喜久川政成*

③ 上地流系

上地完文によって創始された、護身や心身を鍛えることを目的とする伝統的な武術であるとともに、沖縄の歴史・風土に育まれた、礼節を重んじ平和を尊ぶ伝統武術として広く普及しています。

〈特徴〉

- ・サンチン(三戦)を基礎とする8つの型を中心に据え、準備運動、補助運動、指先を含む手足の鍛え、組手等の稽古法が体系化されており、鍛錬には巻藁やカメ等の独特な器具も用います。また、上地流の鍛錬はサンチン(三戦)に始まりサンチン(三戦)に終わるといわれ、鋭く短い実践的な呼吸法をはじめ、基本姿勢など、必要な心身の基礎を確立しています。
- ・しなやかな円運動による身体操作など、型に秘められた精緻な技が特徴です。

〈代表的な担い手〉

上地流



上地流 高良信徳*

上地流 仲程力*

(* 写真提供: 沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課)

空手・古武術の流派 りゅう は

④古武術

棒、サイ、ヌンチャク、トンファー、カマ、ティンペー、權(エーク)など、様々な武具を使用し、護身や心身を鍛えることを目的とした沖縄の伝統的な武術で、琉球国時代に首里の士族を中心に発達し、地方へと伝わったとされます。

〈特徴〉

- ・身近な日常の生活用具を武具として用います。
- ・伝統的な型の鍛錬を中心に、様々な稽古法が体系化されており、年齢や性別に関係なく一人でも場所を選ばずに稽古できます。
- ・技法の特徴は、武具を手足の延長として、遠心力やしなりを利用した所作などです。また、型には空手との共通点が見られ、親近性があるとされています。

〈代表的な担い手〉

古武術



古武術 伊波光太郎
(写真提供：沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課)

沖縄の空手・古武術の「型」は全て“受け”から始まる。「空手に先手なし」という争いをさける精神が表れているね。



〈古武術の武具の一部〉

